

Rotary

イマジン
ロータリー

IMAGINE ROTARY



国際ロータリー 第2550地区

宇都宮東ロータリークラブ会報

<http://www.ri2550uerc.gr.jp/>

会 長 加藤 勝朗

幹 事 塚越 淳史

会報・雑誌委員長 関 元明

例会場 宇都宮市大通り2-4-6 ホテルニューイタヤ

例会日 毎週火曜日(12:30~)

事務局 ホテルニューイタヤ内 宇都宮東ロータリークラブ TEL.028-638-5125 FAX:5128

通算2972号 2022年10月11日(晴れ) 第14回例会 会員数112名

ハイブリッド例会

点 鐘 加藤 勝朗 会長
司 会 SAA中山会員

◇ロータリーソング「四つのテスト」

※マスクを着用し、心の中で斉唱

◇本日のランチ 海鮮ちらし 汁



ビジター紹介

細谷副会長

◇米山記念奨学生

ラグワスレン, アマルサナー君(アマラ君)



会長挨拶

加藤 勝朗 会長

皆さん、こんにちは。今日は、ロータリーの奨学金制度について私見を述べさせていただきます。ロータリーは団体に対しての奉仕活動は得意ですが、個人に対する奉仕活動は不得意な様です。奨学金の支給は個人に向けて行われます。日本人の国内での就学困難学生には、主にロータリー財団地区補助金を使って支援することができます。誰を支援するのかはクラブの責任で選び、地区が承認するシステムになっています。在日外国人留学生の支援はロータリー米山記念奨学会が担っています。選考からアフターフォローまでしっかりしたシステム・ノウハウを持っています。高校生を対象とした青少年交換プログラムと違って、高い確率で日本と母国の架け橋になっています。アマラ君は母国で医師免許を取得した上で自治医科大学に留学しています。当クラブでは、久しぶりに研究者の米山留学生を受け入れました。皆様も、アマラ君の支援、よろしく願い致します。本日の卓話、楽しみにしています。

◇奨学金の授与



米山記念奨学生

ラグワスレン, アマルサナー君(アマラ君)

◇R財団より表彰

<PHF>

石田 裕之会員

金子 剛会員

菊地 章浩会員

大関 国明会員

岡田 孝司会員

床井 光雄会員

上野 初雄会員

<マルチプルPHF>

片嶋 常隆会員(1回目)

菊地 正幸会員(1回目)

黒崎 定美会員(1回目)



幹事報告

塚越 淳史 幹事

◇本日18時30分~ ホテルニューイタヤにて
加藤年度第4回定例理事会開催。

委員会報告

<皆出席表彰・9月分> 尾野崎副委員長

通算31年 高野 藤房会員

通算25年 福田 治雄会員

通算22年 加藤 勝朗会員
通算17年 五味 秀幸会員
連続12年 齋藤 秀明会員
連続12年 手塚 正智会員
連続9年 山崎 盛美会員
通算4年 床井 光雄会員

「3分間スピーチ」



宮下 浩会員

こんにちは。宮下です。職業分類は眼科、入会は1978年で、岡田耳鼻科の岡田先生と小菅産婦人科の小菅先生と医者3人が一緒に入りました。当時は40人位で、規律が厳しく、ロータリーバッジをつけていないとスマイル、ネクタイをしていないとスマイル、メーキャップは1週間以内と、かなり厳しかったです。ある先輩からは「例会に遅れるようなら、はじめから出てくるんじゃない」と言われたので、続けて休んだところ、「4回連続休むと自動的に退会だ」と言われ、これ幸いに「辞めます」と言ったのですが…。小菅庸二先生から「次は会長だ」と言われ、「ノーと言うなよ、ロータリー」ということで、会長をやりました。1998-99年、RI会長はジェームス・L・レイシー会長でテーマは「ロータリーの夢を追い続けよう」、地区ガバナーは黒須病院の黒須先生でした。幹事は福田治雄さんをお願いいたしました。「識字率の向上」を目標のひとつに掲げていましたので、カンボジアに小学校を建てることになりました。現地のロータリークラブに協力して貰おうと思ったのですが、内戦で休会状態でした。当時会員の塚田宗雄さんが仏教会で小学校を建てたというので、その実績を買い、国際奉仕委員長としてカンボジアと連絡をとって貰いました。アンコールワットに行く途中にあるソンドン村に鉄筋コンクリートの小学校を建てました。落成式に我々20人位で、バスに乗って向かったのですが、兵士が4WD車2台で護衛してくれました。炎天下の中、子ども達が待っていてくれて、拍手で迎えてくれました。子ども達は裸足かゴム草履で、ノートはなく、石版を持って石墨で字を書きました。ノートとボールペンを寄付しましたところ、手を合わせてキラキラ光る目で感謝されました。当時、シエムリアップ州には電気が通ってい

なくて、マイクは自家発電でした。校長先生は先生の資格を持っている唯一の先生でした。国道沿いの土地は一坪7ドルでしたが、「地雷がうまつてるかもしれませんよ」と言われました。夕方にはパーティーをして、先生方を招きましたが、ホテルには入ってこられないようでした。シャワーはお水でした。水道はほとんど川直結で、生のものを食べると翌日はお腹が大変です。トイレはありません。公衆トイレなどをつくると、雨期に水没してかえって不衛生とのことでした。いろいろとお話したいのですが、また、別の機会に。

※次回3分間スピーチは黒澤佳樹会員



卓話

米山記念奨学生卓話

米山記念奨学生 「近況報告」

米山記念奨学生

ラグワスレン、アマルサナー君

皆さん、こんにちは。自治医科大学脳神経外科大学院生のアマルサナーです。本日は、米山奨学生卓話をすることになり、とても嬉しいです。私の出身はモンゴルです。2012年6月のモンゴル国立医科大学を卒業し、その後2年間、モンゴル国立医科大学神経科医を専攻し、2015年～18年までモンゴルの病院で神経科医として勤務、2019年から1年間、自治医科大学脳神経外科部門の研究生でしたが、その後、大学院生になりました。本日は、はじめにモンゴルの紹介をして、その後、研究のテーマについてお話いたします。

－ パワーポイントにて説明 －

1. モンゴルの紹介

モンゴルは、北はロシア、南は中国に周りを囲まれた海のない国です。正式な国名はモンゴル国、首都はウランバートル、面積は約156万km²、人口約335万人、人種はモンゴル人及びカザフ人等、言語はモンゴル語です。

モンゴルの国土の80%が草原になっており、まさに、「草原の国」です。南部はゴビ砂漠が広がり、北部にはタイガと呼ばれる針葉樹林帯が広がっています。首都のウランバートルには、国民総人口の約半数にあたる140万人がいます。人口の6割は若者が占める非常に活気あふれる街です。また、都市部には近代的な建物が並び、辺りを見渡すとおしゃれなカフェやセレクトショップが軒を連ねるなど、「遊牧民」「大草原」といったイメージとはかけ離れた世界が広がっています。

気候についてですが、モンゴルは標高が高く乾燥しているため、日本より平均的に寒い気候になっています。冬はマイナス30～

40℃に達することもあり、自動車を外に放置しているとバッテリーがあがったり不具合が生じるため、なるべくガレージに入れて管理しなければなりません。夏は30℃を超えることもあります。木陰に入ると涼しく感じます。これは日本と比べ湿気が少なく、乾燥しているからです。また、夏でも夜は急に冷え込むため、パーカーやトレーナーのお世話になることが多いです。

料理ですが、モンゴルの料理は、伝統的に「赤い食べ物」と呼ばれる肉料理と「白い食べ物」と呼ばれる乳製品に大別されます。伝統的な遊牧生活においては前者は冬季、後者は夏季の食べ物です。主食として小麦や米が食べられますが、量的には肉が主食並の量を占めます。また、各地の気候による食材の違いがあり、地域毎に料理の違いが見られます。

モンゴルの祭りについてです。モンゴルを代表する3競技「競馬」「相撲」「弓」の技術を競うのがナーダムです。弓射は個人戦と団体戦があり、老若男女を問わず参加ができる競技です。モンゴル相撲は21ある各県から数百人のつわものが集い、白熱した闘いが繰り広げられる男の競技です。モンゴル相撲に土

俵はありません。騎馬民族であるモンゴル人にとって、馬は何より大切な財産であり友でもあります。レースは2歳馬、3歳馬、5歳馬、6歳以上、種馬の各レースが行われ、数百頭の馬が草原を駆け抜けていきます。是非皆さん、モンゴルに来て下さい。次に、私の今やっている研究テーマについてお話いたします。

2. 研究テーマについて

写真は自治医科大学脳神経外科の人達の写真です。研究室では様々な脳の研究をしています。私の今の研究テーマは、「侵襲的脳深部計測を用いたヒトの視床下核における多安定知覚と感情の情報表現の解明」です。本研究の目的は、多安定知覚と感情反映する神経活動解析と視床下核におけるヒトの多安定知覚と感情の情報処理のメカニズムを解明することです。

※パーキンソン病治療に対する脳深部刺激療法など、研究方法を図解で説明していただきました。

皆様のおかげで、今、私の研究はよく進んでいます。以上で卓話を終わります。本日はどうもありがとうございました。